

牛島貞満さん

「鉄の暴風」という言葉をご存じだろうか。1945年の沖縄戦で、米軍から地形が変わるほどの激しい艦砲射撃や空襲を受けたことをたとえた言葉だ。撃ち込まれた鉄の破片を片手に、全国各地で講演する元小学校教諭の牛島貞満さん（65）は、この沖縄戦を率いた牛島満司令官の孫だ。

「もし戦争が起きたら、軍隊は住民を守ってくれると思いますか」。9月13日、東京都江東区で行われた沖縄戦についての学習会。都内在住の牛島さんが問いかけると、約50人の参加者は固唾（かたず）をのんで次の言葉を待った。「軍隊は住民を守らない。これが私の出した結論です」。元教師らしく、はきはきとした口調。どうしてこの結論に至ったのだろう。（毎日新聞 18/10/9 より）



1953年、東京生まれ。

2017年3月まで、東京都公立小学校教員(狛江1小にも赴任)。

祖父は、沖縄戦第32軍(沖縄守備隊)軍司令官だった牛島満中将。

41歳から沖縄で祖父の足跡を調べはじめ、沖縄戦研究者や体験者、生前の祖父を知る人を取材しました。2004年から沖縄で「牛島満と沖縄戦」をテーマに小学生から高校生へ向けた授業を行っています。また、沖縄の基地問題について、特に1959年の米軍ジェット機宮森小墜落事件、2004年沖縄国際大学米軍ヘリ墜落事件について取材し、基地被害の実態を伝える授業や活動を続けています。